

肢体高

保健体育科「オリジナルゴールボール」高等部2年(ボール遊び、球技)

「シンプルに勝敗がわかり活動量も確保できること」「重度重複障害のある生徒が楽しく友達とゲームができること」を大事にしました。たくさんボールを転がして相手コートに入れることを楽しめる『ゴールボール』を題材として扱い、生徒が自分に合った方法でボールを転がせるよう、コートの大きさや補助具、働きかけを工夫しました。

構想、指導案検討で大事にしたこと

- ・生徒につけたい力の明確化
- ・目標を『ゴールに向かって転がす』に焦点化
- ・ワールドカップさながらの雰囲気づくり
- ・生徒がその時間に何を考え、解決したらよいかわかる課題や発問
- ・生徒の意欲や活動が途切れないような補助具
…名付けて“ブルドーザー方式！”



本時の授業

本時の探究課題

ゲームに勝つためには、ボールをどのように転がせばよいだろう

- ・ボールをたくさん転がすために、右へ左へ電動車いすを操作し、時間いっぱいボールを追いかける姿
- ・ボールを見つけまっしぐら！近くに行ったらボールを足で蹴り、見事相手コートに入れてガッツポーズ！
- ・生徒自ら転がし方に気づけるように、生徒の動きを全体にフィードバックして共有



新井教授の助言

学習活動の奥にある学習のねらい・内容を整理することで、指導・支援が明確になる

題材「ゴールボール」の魅力・面白さに基づいた働きかけを常に意識する



授業者の学びと授業改善のポイント

個々の実態に応じた目標と評価

同じ活動の中でも個々の生徒の目標を明確にすることで、適切な働きかけと評価につながる

目標を達成するためのシンプルな環境づくり

生徒が教科の見方・考え方を働かせることができるようなシンプルな環境設定と発問の工夫



知的高

音楽科「ボディパーカッションで表現しよう」高等部2年(創作)

生徒が自分の思いや意図をもって表現活動に取り組むことを目指して授業を考えました。扱った題材は様々な表現パターンを考えることができる「波」。自分がイメージした波を音楽を形づくる要素の「強弱」「リズム」に着目し、強い波、弱い波、優しい波、舞い上がる波等、友達や教師との対話をとおして自分のイメージを具体化しリズム譜に表してからボディパーカッションで表現しました。

構想、指導案検討で大事にしたこと

- ・音楽を形づくる要素とその働きを感じ取るための題材設定
- ・表現したい「波」を具体的にイメージできるように言葉や絵で表現
- ・思いや意図を「リズム」「強弱」の創意工夫に生かすためのICT活用



本時の授業

本時の探究課題

ボディパーカッションで波の音を表現しよう

- ・教師や友達との対話をとおして漠然としていた「波」のイメージが、より鮮明になり、さらなる表現の意欲に「私は高く舞い上がる波を表したい」
- ・イメージする波を表現するために、リズム譜を基に手を強く叩いたり、だんだん弱く叩いたり…試行錯誤する姿
- ・波のイメージと音楽を形づくる要素が往還するような発問



新井教授の助言

教科学習をとおして社会とつながる経験をつくり、生徒の自信や安心の基盤に

関係ないように見える波のイメージと音符がつながることによって相互にリニューアルする。これが教科学習の意義の一つ



授業者の学びと授業改善のポイント

イメージを言語化、具体化するための手立ての大切さ

教師との対話や生徒同士が思いを伝え合う活動を設定することでイメージが具体化し創意工夫や表現の意欲につながる教科学習をとおした社会とのつながり

教科「音楽」で他者と思いを伝え合い、表現し合うことが、「社会やみんなの中の自分」を実感し、社会とつながる基盤となる